

肥前さが幕末維新博覧会

そして今、
佐賀は未来を見ている

今年、2018年は、明治維新150年の節目の年です。

幕末維新期の佐賀は、西洋の学問や技術の積極的な導入により、国内最先端の科学技術を有し、日本の近代化をけん引する存在として、その動向が注目されていました。明治維新の鍵を握っていたとも言われる佐賀からは、稀代の名君と謳われた10代佐賀藩主・鍋島直正をはじめ、早稲田大学を



創設した大隈重信や北海道開拓の父と呼ばれる島義勇、東京駅を設計した辰野金吾など、新しい国づくりに寄与した偉人たちが数多く輩出されました。こうした偉業や偉人たちを顕彰し、その



△「ユージアム サガ」の料理

志を今に活かし未来につないでいくため、「肥前さが幕末維新博覧会」を開催しています。日本初の鉄製大砲や実用蒸気船をつくり上げた高度な「技」とその技術を支えた「人」、そして、その礎となった「志」。これらを最新の映像技術などで体感できるテーマ館のほか、世界に誇る有田焼などの器で、一流シェフの料理が味わえるイベントや、県ゆかりの世界的アーティストの展覧会など、佐賀県の歴史・食・文化・アートを楽しめる博覧会です。

志を今に活かし未来につないでいくため、「肥前さが幕末維新博覧会」を開催しています。日本初の鉄製大砲や実用蒸気船をつくり上げた高度な「技」とその技術を支えた「人」、そして、その礎となった「志」。これらを最新の映像技術などで体感できるテーマ館のほか、世界に誇る有田焼などの器で、一流シェフの料理が味わえるイベントや、県ゆかりの世界的アーティストの展覧会など、佐賀県の歴史・食・文化・アートを楽しめる博覧会です。



△博覧会のメインパビリオン幕末維新記念館



△幕末維新記念館(「幕末維新」体感シアター)

先人たちが築いた佐賀の礎。明治維新150年を機に、その志を今に伝えながら、ふるさとへの誇りや愛着を持った人づくりや、地域経済の活性化などにつなげていきたいと考えています。

i 肥前さが幕末維新博覧会
会期:2019年1月14日(月・祝)まで
会場:佐賀市内エリアをメイン会場に県全域で開催

詳しくは

肥前さが幕末維新事務局 ☎0952-25-7504 ✉sagaishinhaku@pref.saga.lg.jp
http://www.saga-hizen150.com さが維新博

オランダハウスー 未来に向けた オランダとの交流

2016年、駐日オランダ王国大使館と佐賀県が「クリエイティブ連携・交流協定」を締結して以来、その交流は着実に進展しています。

有田で始まったアーティスト・イン・レジデンスをはじめ、ジャズコンサートやクラシックコンサートなど、県内でオランダ人アーティストが活躍し、地域の人々と交流を深めています。スポーツ分野では、オランダ



△ダッチギャラリー

△SUGAR ROAD MARKET

の空手チームが、2020年東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿を佐賀県で行うことを決定し、空手チームや女子野球チームが、佐賀のチームと県内で強化合宿を行うようになりました。そして、今年、オランダと佐賀の未来に向けた



△オランダハウス

交流拠点「オランダハウス」を佐賀市呉服元町に開設しました。

ここでは、オランダ人クリエイターによる展示会やアーティスト・イン・レジデンス、オランダ伝統の味を再現したカフェのほか、オランダと佐賀との共通テーマである「水辺」でのアクティビティなどを実施。オランダと佐賀を語り、佐賀に居ながらオランダを身近に感じてもらうことで、オランダとの絆を強くしていきます。

●アーティスト・イン・レジデンスとは、招へいされたアーティストが、一定期間滞在し、地域と交流しながら創作活動を行うことです。

佐賀農業の 未来を体感する

農業は佐賀県の基幹産業です。米や佐賀牛をはじめ、いちご、たまねぎ、れんこん、ハウスみかんなど、世界に誇れる農産物が数多く生産されています。

こうした佐賀農業をもっと知ってもらうため、明治維新150年を迎えた今年、『さが農業「歴史・未来」展』を開催します。今日の佐賀農業を築いた先人の功績を礎にして、未来にはばたく佐賀農業を見て、触れて、感じる事ができ、子どもから大人まで楽しめる体験型の企画展です。ぜひ、佐賀農業の未来を体感してください。



△ドローンによる作業

i さが農業「歴史・未来」展
会期:平成30年11月下旬~12月中旬
会場:幕末維新記念館(市村記念体育館)横の特設会場

詳しくは

【オランダとの交流】国際課 ☎0952-25-7328 ✉kokusai@pref.saga.lg.jp
【農業展】農政企画課 ☎0952-25-7587 ✉nouseikikaku@pref.saga.lg.jp